

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 2F)

事業所番号	0691100051		
法人名	ふるさと企画有限会社		
事業所名	グループホーム大手町 和心		
所在地	山形県新庄市大手町1-25		
自己評価作成日	平成 30 年 9 月 5 日	開設年月日	平成21年11 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、窓からは新庄祭りや花火も眺めることができる恵まれた環境にある。市民プラザや図書館などの公共施設や公園が歩いて行ける距離にあるため、催し物や地域との交流にも気軽に参加できる。また、同町内にあるグループホーム大手町との交流や協力体制も整っている。「共に笑ってつながって」の理念のもと感性や感情にふれる交流をし、ご家族がなかなか連れて行けない場所へも職員と外出して自然にふれあったり、ホームに居ながら一流の音楽を聴く機会を設けるなど非日常を楽しんでいる。普段からご家族の思い、悩み・不安に耳を傾けながら情報交換を密に行い、信頼関係を築きながら笑顔のある穏やかな暮らしを送るお手伝いをさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 10月 3日	評価結果決定日	平成 30年 10月 24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げ、全職員が常に意識できるようにしている。また、ホーム便りや運営推進会議の資料には毎回理念を載せ、所内研修時にも確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧版や資源回収への協力をしている。また、毎年町内の芋煮会や保育所の夏祭りには招待して頂いている。年1回は避難訓練に近隣の方から参加して頂いた。外壁に掲示板を設置し、地域への発信をしている。利用者が縫った雑巾を、地域の小学校や保育所に寄付した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ワンポイント個別相談会を無料で行った。玄関にはAED設置のステッカーを貼り、市のHPにも登録している。地域のボランティアの受け入れや、各種イベントの広告への協力も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・サービスの状況の報告は毎回行い、外部評価結果報告・家族アンケートの集計結果報告など、テーマを変えて、2ヵ月ごとに行っている。市の担当者・認知症地域支援推進委員・区長・家族の方々の意見を聞ける貴重な場となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に空き情報を報告している。また、認知症ケアの相談会開催をお知らせし、宣伝して頂いた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束排除のマニュアルを整備し、資料を用いた勉強会・回覧を行い、全職員に周知させている。玄関の開閉は、自動ドアの構造上職員が行っているが、ケアの一環としての外出は出来る限り行っている。玄関の施錠については、防犯上の視点から現状のままを家族から願われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止とその対応についてのマニュアルを整備し、全ての職員に周知し、資料の回覧や勉強会を行っている。職員間の連携を密にし注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料の回覧や勉強会にて学び、相談に応じる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の写しを事前に渡し、目を通してもらっている。契約前や契約時・契約後も疑問点には説明を行っている。改定時の説明は書面にて行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っており、その結果と意見・要望は家族にも知らせ、サービスに活かしている。また、運営推進会議でも取り上げ、外部者への公表の機会を設けている。また、利用者の状態の変化には、個別に面談をするなど、不安や本意を聞いている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同主任会議、フロア会議等で意見や提案を聞き、その都度適切に対応している。毎日、昼の決まった時間に1F2F合同のミーティングを行い、その内容は連絡ノートで全員に周知している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与・処遇改善手当・夜勤手当等に処遇改善金を活用し、労働時間の希望には個別に対応している。また、今年度行った第2回目の職員の子どもで中学生以下を対象に行った「お仕事参観」では、責任とやりがいを持ち、生き活きと仕事をしている姿を見せることが出来た。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトの可能な限り外部の研修を受講させている。村山地区ブロックの交換実習へは、各ユニットから1名ずつ参加し、他事業所での実習を行った。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最北地区グループホーム連絡協議会や村山ブロックグループホーム連絡協議会で同業者の交流を行っている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネージャーから情報を聞き、事前面談では必ず本人に会い直接話を傾聴している。本人の思いに応えられたいか、何が不安かを理解できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談から、家族が困っている事、不安なこと、要望等を聞き取り、情報を共有し、関係づくりに努めている。家庭の延長のような暮らしができるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所のケアマネージャーや地域包括支援センター、必要に応じて主治医と地域医療連携を図りながら、本人家族の思いも確認している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、掃除、洗濯物干しや洗濯物たたみをそれぞれの生活リズムを大切にしながら共に行動し、その中で人生の大先輩に教わり、共感し感謝の気持ちを持ち言葉を交わしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は必ず状況報告を兼ねて家族と話をしている。また毎月便りで近況報告を行っている。遠方の家族や中々面会に来られない家族へは電話連絡で情報を共有している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた近所の知人・友人・親戚・姉妹の方の面会や家族の協力で自宅への外出をして頂いたり、馴染みの場所へのドライブをしたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士と一緒にお茶の時間を過ごし、談話を楽しめるように配慮している。また、制作活動を通して利用者同士が協力し交流を図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居される際、これまでの生活環境、支援の内容、注意点などの情報提供を行い、これまでの暮らしが損なわれないよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から行きつけの理容室に通っている方は、現在も継続しており、散髪がてら会話やお茶を楽しまれている。それぞれの家族との外出には、本人の体調を鑑みて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族・親戚・ケアマネージャー等から情報を提供して頂き、生活歴・生活習慣や得意をすること等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の流れをシートに作成し、トイレの声掛けのタイミングや不穏時の行動など、現状の把握に努めている。また、毎日の引継ぎはフロア内全員が周知できるように引継ぎノートを使用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を取り入れながら、本人が快適に過ごせるよう担当者で話し合い、介護計画を作成している。作成した介護計画は家族より確認して頂き、サインしてもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、健康管理記録、ケアプランチェック表を活用し、職員間で日中と夜間の様子、状況の把握やケアを相談できるようにしている。職員間ノートの活用でより統一したケアが行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	同町内にある公共施設の利用や、地域の催し物を把握し、利用者の個々の嗜好に合うものを薦め本人の意向のもと、参加支援している。			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	当ホームの協力医だけでなく、入居以前からのかかりつけ医の選択も、本人家族の意向を踏まえ、決定して頂いている。緊急時の受診の際は当ホームの協力医が近く、より迅速な対応が可能である。			
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	看護職員と介護職員が毎日の健康管理や状態の変化に各々の観点からの意見を介して、相談・連携し適切な受診等を行っている。			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院の際、生活記録、健康管理記録なども活用し、生活介護概要票を作成したり、かかりつけ医紹介状も合わせ、適切な医療が行えるよう病院の相談員と情報交換や面談を行っている。			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居の際、重度化した場合の対応の指針を説明し、家族より同意を得ている。重度化に際しては、医師・家族・職員が本人の意向を踏まえ相談し、本人が以後適切な介護・支援を受けられるよう対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応をマニュアル化し、連絡網を作成・周知徹底に努め、目に付くところに掲示している。救急の初期対応に関しては、救命救急手当の実演・演習を行い迅速に対応できるよう努めている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練により職員の意識付けを行っている。消防署・防火設備業者より助言して頂き、改善に努めている。また近隣の方々からも参加してもらい、何かあったらお互い協力し合えるようお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の立場に立ち、安心かつ丁寧な声掛けや対応に努めている。プライバシーに配慮しながらその方の訴えや気持ちに沿えるようにしている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞けるよう一人一人の方と関わる時間を持つよう心掛けている。話をする際は傾聴する姿勢を持ち、良い雰囲気を作り本人が自己決定しやすいよう配慮している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、その方のペースで生活できるよう配慮している。本人の希望を確認しながら活動・行事を進めている。本人の希望で晴れた日には散歩やドライブをしている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自己管理できる方にはその日着たい服を選んで頂いている。また衣類の汚れやほつれ、破れ等に気付いた時には声を掛け、洗濯・修復をし、気持ちよく着て頂けるようにしている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、メニューに取り入れたりしている。また、旬の物を使うことでその季節を感じながら食事を楽しんで頂いている。盛付けや食器拭き、野菜の皮むきなどできる範囲で調理に参加、協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用し、栄養バランスやカロリーに気を付けた食事を提供している。ホームメニューでは旬の物を活用したメニューを考え、一人一人の状態に合わせ食べやすい食事の形態を工夫している。水分摂取量が少ない方にはこまめに声掛けし、提供している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には声掛け、できない方には見守り・介助をしている。拒否がある場合は時間をおいて様子を見たりして一人一人の口腔状態を把握し口腔ケアに努めている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの生活リズムやタイミングに合わせて声を掛け、トイレ誘導を行っている。訴え時やトイレのサインを見つけた時は速やかに対応するよう努めている。自立している方にも排便の確認をし健康管理をしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう下剤の調整をしている。こまめに水分摂取を促したり、食事では乳製品を提供したり、運動面では、風船バレーやTV体操、週一回のいきいき体操などを取り入れている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態を確認し、本人の希望に合わせた入浴を行っている。一緒に会話などをしながら楽しんで入浴して頂いている。入浴拒否のある場合は、時間や日にちをずらして対応している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠して頂けるよう、日中はレクリエーションや体操を取り入れている。一人一人の体調に合わせて、日中でも疲れた時には休んで頂けるように配慮している。夜間眠れない方には、一緒に過ごしたり、安心して眠れるような声掛けや対応をしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のファイルに保管している薬の説明書を読み、理解している。また主治医や薬剤師の指示のもと、注意事項に気を付けながら服薬の支援を行っている。新しい薬が処方となった際には特に気を付けて状態観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に基づき、利用者が楽しく作業や役割を行えるように支援している。また季節の行事、長寿会、レクリエーション等を行い、楽しみになるように工夫している。行事後には写真を提示し楽しかったことを思い出して頂けるようにしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や体調により、天気の良い日にはドライブ等を行ったり、週一回のいきいき体操に外出したりしている。家族の協力を得ながら外食・外出を行いリフレッシュして頂きながら生活できるよう支援している。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談の上、使用できる範囲の所持を支援している。所持された場合には、他利用者とのトラブルにならないように注意を払っている。本人がお金を持つことで安心して生活できるように支援している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えのある方には、電話やハガキの対応を支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒などしないよう家具の配置に気を付けている。また、気温に応じて冷暖房の調整を行っている。掲示物などは季節を感じられる物を利用者と一緒に作成している。			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士、ソファやテーブル席に座りテレビを見たり会話をしたり、洗濯たたみをしたり等、思い思いの活動を行えている。一人になりたい時には居室で過ごせるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、使い慣れた家具や寝具、馴染みの物を使って頂くことで、居心地の良い空間で生活できるように工夫し、支援している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考え、転倒等のリスクをなくし、安全な環境の中で自立した生活が送れるように支援している。		